

＝新型インフルエンザについて＝

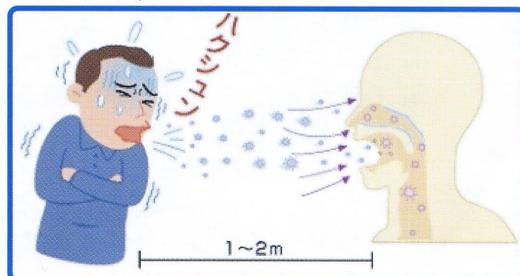
看護部感染対策委員長 村野みちよ

1. 新型インフルエンザってどんな病気？

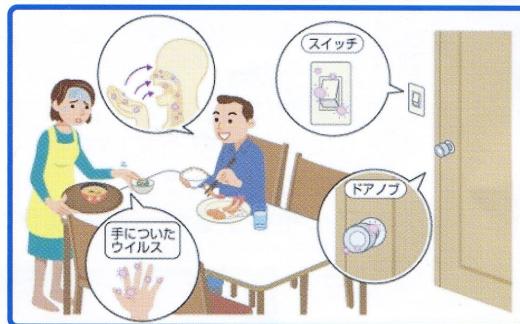
新型インフルエンザは、新しい型のインフルエンザウイルスによって起こるインフルエンザです。主な症状は、39度以上の急激な発熱や咳（せき）、のどの痛み、関節痛などで、季節性のインフルエンザと同じです。新型インフルエンザは、ほとんどの人が免疫を持っていないため、たくさんの人に急激に感染が広がってしまう可能性があります。

2. どのように感染するの？

① インフルエンザウイルスは、咳やくしゃみのしぶきで身体の外に飛び出し、それを他の人が吸い込むことによって、ウイルスが身体の中に入っていきます。咳やくしゃみなどのしぶきは、空気中で1～2m以内にしか飛びません。



② 咳やくしゃみなどで身体の外に出たウイルスは、手などを伝って机・ドアノブ・スイッチなどに付きます。健康な人が机・ドアノブを手で触れ、かつその手で自分の眼や口や鼻を触ることによって、ウイルスが身体の中に入っていきます。



3. 感染を広げないためには？

予防の基本は

- ◆正しい手洗いで、手に付いたウイルスを洗い流します。
- ◆マスクをつけ、咳やくしゃみと一緒に、しぶきが周りに飛び散るのを防ぎます。

4. 正しい手洗い方法とは？

①流水で手をぬらし、石鹸をつける



②手のひらを洗う



③手の甲を洗う



④指先と爪の間を洗う



⑤指の間を洗う



⑥親指と手のひらをねじ洗う



⑦手首を洗う

⑧石鹸を洗い流し、きれいなタオルもしくは紙タオルで水分をふきとる。

☆感染を広げないために、一人一人が「感染しない」「感染を広げない」ことを意識することが大事です。

形成外科紹介

形成外科部長 日笠 壽

形成外科とは、体全体の表面を扱う外科であり、骨や筋肉を扱ういわゆる整形外科とは、別です。

形成外科は大きく分けると、外傷、皮膚腫瘍、先天奇形、美容に大別されますが、当科では特に下記に力を入れています。

◎ 血管腫・血管奇形・皮膚レーザー治療

当院形成外科には、現在5種類の皮膚疾患治療用レーザーがあります。

先天性単純性血管腫、莓状血管腫（いわゆる赤いあざです）に対してダイレーザー治療を行っています。また加齢とともに出現する老人性血管腫、毛細血管拡張症も治療可能です（保険治療適応）。その他扁平母斑（いわゆる茶色のあざ）、太田母斑（いわゆる青色のあざ）、異所性蒙古斑に対しルービーレーザー、アレキサンドライトレーザー治療を行います（保険治療適応）。



治療前



10回治療後

あざの専門外来は、月、水曜日午前中です。

またレーザー治療では効果のない血管奇形に対しては、硬化療法も行っています。難治性の血管奇形に対しては、大阪大学形成外科、放射線科と連携をとって、高度先進医療ができるように連携に努めています。

その他日焼けによるシミ、黒子、イボ、刺青等についてもレーザー治療していますので、お気軽に相談下さい。（一部保険治療対象外となる場合もあります。）



手術前



1回手術後

◎ 下肢静脈瘤

これは妊婦や加齢とともに出現する下肢に静脈が浮き出た状態で、女性や立ち仕事の方に多くみられます。長期間に放置すると痒みがでたり、潰瘍を形成したりすることにもつながりますので、早めの受診をお勧めします。今年度から、超音波カラー Doppler を導入し、血流状態が十分に把握できるようになりました。硬化療法、結紮術+硬化療法、ストリッピングと重症度に応じた治療を行っています。

専門外来は、第1、3、5月曜日、第2、4火曜日午前中となっています。

◎ 眼瞼下垂

年をとるにつれて、目が疲れる、物が何となく見えにくい、さらに瞳孔を塞ぐようになると、顎をあげないと物がよく見えない、そのため肩が凝るといった症状が出てきます。これは、瞼を上げる筋膜が加齢と共に緩むために起きる眼瞼下垂という状態です。程度の差はあるにしろ、加齢とともに必ず出てきます。年だからしかたがないとあきらめる前に是非ご相談下さい。手術によって、視界が広がるだけでなく、若返った印象になります。

当科では顕微鏡を用いた手術を行い、術後の腫れを最小限に押さえる努力をしています。

※ 写真の掲載はご本人の承諾を得ております。



手術前



手術後4年

◎ 創傷センター開設

傷は、年齢、部位、体質によって治り方はさまざまです。小さな外傷や熱傷から糖尿病性潰瘍、褥瘡といった慢性潰瘍までを、できるだけきれいに早く直すために傷を治す専門外来として、形成外科に相談して頂くために2004年11月より開設いたしました。また近年増加している糖尿病、閉塞性動脈硬化症に伴う足病変の患者さんの治療や予防を専門に診察するフットケア外来も併設しました。

褥瘡は、体の一部分のみに荷重がかかり発生する傷、いわゆる床ずれのことです。当科では訪問看護ステーションと連携をとりながら、入院手術、訪問看護を含めて総合的な治療を心がけています。

専門外来は、毎週金曜日午前中です。

美容について：当科では、いわゆる美容手術を行うことは少ないですが、美容外科は形成外科の一分野です。美容外科についての相談にも応じますので、気軽に受診下さい。毎週木曜日午後です。

大学との連携：当科は大阪大学医学部形成外科の関連施設です。火曜日午後には松田健医師の診察があり、高度な手術を応援執刀していただいております。

形成外科外来診療担当表

平成21年11月1日現在

	月	火	水	木	金
午前	日笠(あざ外来) 川上/中庄谷(一般外来)	藤原(一般外来) 日笠(予約外来)	日笠(あざ外来) 川上(一般外来)	本多(一般外来)	中庄谷(創傷ケアセンター) 当番医(一般外来)
午後	戸田(第1・3・5週 静脈瘤外来)	松田(一般外来) 岡本(第2・4週 静脈瘤外来)	皮膚レーザー(予約)	戸田(美容相談外来)	

診療実績(手術件数)

	平成20年度	平成19年度	平成18年度	平成17年度	平成16年度
新鮮熱傷	15	15	23	16	23
顔面骨折および顔面損傷	67	45	47	49	50
手足の先天異常、外傷	62	64	42	30	22
唇裂、口蓋裂	1	2	0	1	0
その他の先天異常	59	7	7	2	3
母斑、血管腫、良性腫瘍	240	174	239	148	155
悪性腫瘍	24	18	14	17	17
瘢痕、瘢痕拘縮	11	19	18	40	41
難治性潰瘍	51	32	47	68	45
美容外科	1	0	4	1	8
その他	584	512	558	1,144	669
合計	1,115	888	999	1,516	1,033

登録医紹介

子どもさんのことで何でも御相談ください。

島崎診療所



院長 島崎 久美子

こんにちは。南市岡で小児科と内科で開業しています島崎です。元々小児科出身で小児科のことなら少し手慣れていますので診療にはそれほど困りはしないのですが、大人は難しいです。かれこれ大人は10年診療しており、内科も外科も整形外科も日々勉強ですが、ヨチヨチ歩きで困ったときは船員病院さんにすぐにSOSを出して助けて頂いている次第です。

聴診器を持てば一枚下は地獄です。肝に銘じてわからない時は遠慮せずに船員病院の各科の先生方に教えて頂いている現況です。多分迷惑に思われていると思いますが厚かましく頑張っています。



診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:30	●	●	●	●	●	●
16:30~19:30	●	●	/	●	●	/

■診療科目 ・内科 ・小児科 ・リハビリテーション科
TEL: 06-6581-0802
港区南市岡2丁目10-17 末栄ビル2F

ほりかわ泌尿器科は「地域に根ざした医療サービス」を行い、「地域のためにできること」を模索し、「地域をつなげるコミュニティ広場になること」を目指します。

ほりかわ泌尿器科



院長 堀川 直樹

皆様こんにちは。院長の堀川直樹です。昨年8月5日、港区にほどちかい西区九条南で開業いたしました。泌尿器科単科という特殊な診療所ですが、それだけに専門性には自信をもっております。他の診療所の先生方と緊密に連絡を取り、一方で大阪船員保険病院を始め幹病院とも密接につながり、地域をひとつのコミュニティとして発展させ、地域の方々の健康を守っていきたくと考えております。診療時間は午前診8時半から12時、夕診17時から20時です。往診、在宅診療にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。また、時間外でも皆様のご要望にお答えするため、院長直通のホットラインを携帯しています。気軽に相談してください。電子膀胱ファイバー、前立腺専用エコー、ウロフローメトリーなどの専用機器を備え、皆様の期待にこたえられるよう日々努力しております。



HORIKAWA ほりかわ泌尿器科

■診療科目 泌尿器科

診療時間	月	火	水	木	金	土
8:30~12:00	●	●	●	●	●	●
17:00~20:00	●	●	●	●	●	/

休診日: 土曜日午後/日曜/祝日

TEL: 06-7493-6717
TEL 080-1503-7889 (時間外)

西区九条南2-34-7 エルセレーノ九条1F
<http://www.eonet.ne.jp/~horikawahinyouki/>

※駐車場有